

息愛二葉卅之編中卷

○第八章

其昏の跡をうつろつや神のづゑのきるるを知らざるは

らんちちあつたけ城ふらたを中つとらつくとたむのきるる中

ちやむ上ハ入相のつととむれふむくをもんけすむれがの

破滅とをるひをもちふびくと進みんはまゝいふとて

たるがのまゝあつたふ又市川金の子代か山女といふ若

よきせき

ごりち

ごり

これも初めの時より細市をあらうとくみかへしなほまきひの老を

たのびえさのちちちちちち

めいん

と

り

と

速分戈智護明をれがらん人もふ入りり神ふ親きうとらぬ

あ

まの

ら

も

く

ら

て合口をてむのまふされたるはあ彼と浦玉が許入通ふおらうら

う

あんぎう

ら

ら

めいん

あふびりは進られて難ぬ務欠お訓染しうらりとよりうら

め

つ

あ

り

は

ら

ら

おの身を情ししてさふお舌をせまず親きうらが機がんを何ゆて

よ

え

めい

ち

ら

ら

疾病中もとも立ぬり首尾をほくらぬ又延ひひお娘にあど

いりぎ あををほう

ら

せう

あ

その実美くも東あふらんくれば機あもらとあくけら女お物で

ち

せ

ま

ま

り

ころあぬ装うのを結びくればとも侍あらぬぬのあしきうたを

ちいさな塩をこぼしてぬのおはなすのさしたれぐあや侍ららぐ

はたしをたおれてようし 親客も二浦全の件へ来ぐるまき用もまひ

まぐら文が像も絶くやぶるのあふるより侍もくまはもを

あーまがまじと像がちいさきと押ひゆうらあはひの日の

茂ゆきまきとのぼるまきもの茶をまきで火をゆーまも像を侍と

行像のくまきまきあつからきうぬからとれもあれすと

おのひつゝ幾えとのちいへまきの中あつるのを細くとあきさ

てし押ひつるおたまのほもあきを今んゆくの恨とこぶららあき

人共の御座りては、
御座りては、
御座りては、

まことあんど

こも

よもあつし、
よもあつし、
よもあつし、

ハスハス

らひ

ぬらり

たま

男共、
男共、
男共、

ハ

き

あんぎ

あれて、
あれて、
あれて、

のど

くち

あつて、
あつて、
あつて、

おき

あつて、
あつて、
あつて、

らひ

ハス

あつて、
あつて、
あつて、

らひ

ハ

ハス

あつて、
あつて、
あつて、

ちり〜 ^と茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

ら〜 ^{ちり}茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

上〜 ^{ちり}茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

ら〜 ^{ちり}茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

中〜 ^{ちり}茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

お茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

茶を中へ入らさず ^{ちり}煎茶す

しんごうら まき

舞妓のたぐい まき

まき

合点のたぐい まき

まき

まき

まき

可憐なたぐい まき

まき

まき

まき

まき

可憐なたぐい まき

まき

まき

まき

まき

可憐なたぐい まき

まき

まき

まき

まき

可憐なたぐい まき

まき

まき

まき

まき

可憐なたぐい まき

まき

まき

まき

まき

可憐なたぐい まき

ままー〜〜〜^ま〜〜〜^あ〜〜〜^い〜〜〜^え

たの〜〜〜^う〜〜〜^あ〜〜〜^あ〜〜〜^あ

さの〜〜〜^あ〜〜〜^い〜〜〜^あ〜〜〜^あ

ころ〜〜〜^あ〜〜〜^い〜〜〜^あ〜〜〜^あ

あ〜〜〜^あ〜〜〜^い〜〜〜^あ〜〜〜^あ

ゆ〜〜〜^あ〜〜〜^い〜〜〜^あ〜〜〜^あ

ま〜〜〜^あ〜〜〜^い〜〜〜^あ〜〜〜^あ

む〜〜〜^あ〜〜〜^い〜〜〜^あ〜〜〜^あ

あぢう

とまごえん

あつ

さしの伯父さまのきき縁の考あつておぼはるおのむしんせんと

か

つ

た

はづいしくおちしあつていへりていへりていへりていへりていへりていへりていへりて

つ

つ

のあつてをいへりていへりていへりていへりていへりていへりていへりていへりて

え

まな

つ

つ

いへりていへりていへりていへりていへりていへりていへりていへりて

つ

つ

つ

とらあつて市川玉の内お潤市もあつていへりていへりていへりていへりて

え

つ

つ

しんぞ

つ

あつ

縁お拗く若お娘の由縁造りていへりていへりていへりていへりていへりて

よあ

つ

あつ

つ

りあつて夜細おあつていへりていへりていへりていへりていへりていへりて

あ

つ

つ

つ

つ

あつ

つ

あ

大島お行おあつていへりていへりていへりていへりていへりていへりていへりて

て
きこい
中のしんやう
きこい
ちかうき
齒つら外へあしみのあしお能派中をひるひもいふこと

中へあしおをひるひもいふこと

又の料が量りぬり可拾らぬもいへる

中へあしおをひるひもいふこと

又の料が量りぬり可拾らぬもいへる

中へあしおをひるひもいふこと

又の料が量りぬり可拾らぬもいへる

中へあしおをひるひもいふこと

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん

あつちのさうじき 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん 舞妓をのさうせん



きんぎょの
あんなう
うらな
市川やの
ふらふら
実ま
つま

山崎闇斎



ごめど

ぢす

えん

まぐ

ふ何年一と結ぶる由縁のお客もあらぶらむをまらせしめく

あんどん

くも

あまひ

あがり

すむことそれむつうを信らして邪まゝやゆきえんを拜むるも

たま

まじ

うま

あま

今お咄一ちじり通ひの心くはしく候ふおまへに言ひ人のさ

こりま

じま

あまひ

あま

戎意うへごあまゝらむ性なるがうき東イせう餅まのお客之出

ま

あんどん

くも

あま

あま

あま

くも染くあ実んのおう小悦一んらぬ一人の行時忘し

こり

あんどん

ま

あま

あま

あま

あま

ぬ意こふはのりひちりひきまゝんおあられ念くお客の次

くも

あま

あま

あま

婿こふみぎれをりあ〜維ゆ人と朋輩らんおまがられて結る

ま

ふお坊地ひこれるごまぎらふびん〜候はしあし〜はらひしとあかん

〜の炭不湯ろ梳紙はらひをひいて家儀いえぎ入いれくくハカマはかま等らののたた〜

〜くくななままさされれがが実じつ不ふありあり羅ら子こスス〜ししききふふああ〜ししもものの押おひひ入い

せうせう〜のの結むすぶぶ〜強つよぢぢおおかか〜すす〜くくのの友とも縁ゆかり〜

ひひののまま〜まはは所ところまままま〜まののおおかか〜まののまま〜

おお〜めのの不ふ〜めとと〜めのの道みち〜めののかか〜めののかか〜

おお〜めののおお〜めののおお〜めののおお〜めののおお〜

おお〜めののおお〜めののおお〜めののおお〜めののおお〜

おお〜めののおお〜めののおお〜めののおお〜めののおお〜

子代云々入川... 藤菟... 身... 喜

わ... 藤... 初... 付... 他... 人の

船... 藤... 人の... 藤... 藤... の

情... 藤... 藤... の... 藤... の... の

な... 藤... 藤... の... 藤... の... の

市川... 藤... 藤... の... 藤... の... の

命... 藤... 藤... の... 藤... の... の

娘... 藤... 藤... の... 藤... の... の

子代山交入川まのの鏡籠電玉あるにまの山に人が身やうとま

ちうし強きものいかにたはむやまのちかちか初か付よう他あんの

船を喰ませむいぶの山まの人のあつたまのちかちか初か付よう他あんの

情ううましくいふあつたまのちかちか初か付よう他あんの

なまぐしとれいあつたまのちかちか初か付よう他あんの

市川金籠まがけんううて娘のあつたまのちかちか初か付よう他あんの

今更ながあつてあつたまのちかちか初か付よう他あんの

娘がはあつたまのちかちか初か付よう他あんの

12丁 加ブリ

おもひまゝにせらぬと愛持する〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋

amur

スレンド

あや

あとも

あ〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋〜 被利被利がら

あや

あや

あや

〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋〜 被利被利がら

あや

あや

〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋〜 被利被利がら

あや

あや

あや

〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋〜 被利被利がら

あや

あや

あや

〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋〜 被利被利がら

あや

あや

あや

〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋〜 被利被利がら

あや

あや

あや

〜 鐘をうたへぬつてもあまの秋〜 被利被利がら

子代正女入川ち女の鏡菴玉あるらあま富山人が射あゝん其

えん

ちん

ちん

ん

おうらひとてあまのふらたをわづらふとてあまのふらたを

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

船をひらきあまのふらたをわづらふとてあまのふらたを

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あまのふらたをわづらふとてあまのふらたをわづらふ

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あまのふらたをわづらふとてあまのふらたをわづらふ

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あまのふらたをわづらふとてあまのふらたをわづらふ

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あまのふらたをわづらふとてあまのふらたをわづらふ

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あゝん

あまのふらたをわづらふとてあまのふらたをわづらふ

あゝん

あゝん

よるゝのこゝと昔子の可きさふ能多なるのち悪きを解^とれ^ば

親^りを^らす^まぬも^も 筋^{せがら}が^もの^あつ^きは^や 偽^くる^ち得^える^どの^も 託^{たく}と^と

成^{なり}不^ふ回^{くわい}目^めの^もあ^るしと^もの^あの^きの^り美^き理^り輝^く美^めを^も速^{すみ}く^き後^ご

ナハロウ

又^{また}傾^{かたむ}搖^ゆら^らづ^もと^もも^もと^もお^もろ^ろし^つの^い昔^{むかし}を^をう^らひ^ひと^として^{して}今^{いま}ふ^ふ忠^{ちゅう}村^{むら}

の^ちも^もふ^ふ女^{にょ}子^しも^も人^{にん}を^をか^かへ^へし^しも^もい^いふ^ふた^たち^ち一^{いつ}番^{ばん}も^もれ^れば^ばち^ちん^んど^どら^ら我^{われ}

後^ご入^{にり}の^ちれ^れと^と親^{ちか}を^をき^きら^らづ^もら^ら通^{とほ}入^{いり}の^ち懇^{こん}念^{ねん}を^をお^おろ^ろし^しを^を念^{ねん}を^を

洋^{よう}ら^らふ^ふ昔^{むかし}も^もれ^れば^ばち^ちん^んど^ども^も大^{だい}い^いふ^ふた^たち^ちを^を感^{かん}ら^らず^もり^り一^{いつ}羽^うも^もあ^あり^りて

ニハロウ

ちつ

よろこび

ちがや

こゝと双方とよみ^よみ^みし^しま^まへ^へと^と整^{とと}な^なる^るべ^べし^しと^と整^{とと}な^なく^くち^ちが^がや^や

仇ある仇城のあれの果女子をうづのきりしなむらうふ

親ぢらうが有るのこあるぬぐある中あるおの娘居あるが

まんどまうのまひ老あどらきうけし提あまきおあま

おおかとほけいふこふ入しぬまひたれどあまあ おお村長のん

茂遠のいぬちのどくお娘の小栄が日くお送入まうを

るふ付てものおれ入って催入うお指子の外くおあつるあまの

あつるられまな親まがをうしひの允あまひるを中実ま入始

りたきふ感のどくるとうやまふ又まの知ちの境内か安あ

世に親世なるハ灵験ありて日々集功の

考のちらばらとまじりて世の法らつづき

考のせままでも入昌ありて集功の

親功の修功して森森がまか集功の

のさよをひりてようひりて今又

不整な形を整るをうり外なる

持ありてひりて集功の修功の

毎ハ集功の修功の修功の修功の

毎ハ集功の修功の修功の修功の

毎ハ集功の修功の修功の修功の

ついでに
おやぢ村の
とんぼをんへ
きんぎょの
ふとん
母のすざを
アハカ





くめしせん くさくら がま しき めくら

きつふ門首の行働か痛むらぬあて女亡目入の とての比 あるが

あません しんま

ふ集縁ひきいていふある秋内づーいひいひきいふを録ふらふと

くさくら こがさ あや

らるらうお難ぶぐうもあぬね者母まぶらむいふのひまーあむらふと入

ひきせん くさくら しんま

とも人目をまぶらうて男頭を替入親世まるお流でるる傍にさし

とま めくら

なるに女つかト七 おれを くめー今の亡目入らるがやちちの末下

あな中ど と ちり

る舎けしああるいがもまぶらひまもーい奴でひきいふあふいふの

とま めくら しんま あや

時とくまれ勢い中なる奇形集る形容ちあれどいをも食は

あや めくら

らるまおぬあへ目のひきいふとらぬいひきいふの流へいあしてひきいふ

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page.

ヤヤ

むうん 夜あめふら 朝と暮れ 雲の合を 流るるし

あぐん

あぐん

あぐん

あぐん

あぐん

はるかに 雲ふよう 情まへ 中目 雲じ おれを 実解して

あぐん

あぐん

あぐん

一人 籠りのあめんと 雲の 天昇りて 雲したく

あぐん

あぐん

の合のあめへ 一人あめ 雲のあめ 雲のあめ

あぐん

あぐん

あぐん

あぐん 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ

あぐん

あぐん

あぐん 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ

あぐん

あぐん

あぐん

あぐん 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ

あぐん

あぐん

あぐん

あぐん 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ 雲のあめ

ま

げ

ぶ

ち

小井あつめおんしやと十分おのびはしむかすの人おむねのす

sum thus

より はんく

せぬ ちんとれ

す

とゆじしをよまばつひ又と一あてを又まお迫り垢穢なるは安

あひま

う

おせ相もころしと何地(う)ぬちつを丸かふるま離るある者

すて あくと

ち

う

え持ふるおせもあつめちのむちのむとおのびる人お恨

ちん

ら

かん

おぢうしおせぬとゆめし様(ら)のあぢあつめちのむと

せ

ち

かん

え

おの日又一支の令と妙(百)ぶろうを紙(お)包(も)てまお坊の海(う)さ

ん

ち

ち

らゆめのごとく妙(肉)ぶ(り)ぬてそれをとま(り)たるおお紀(ハ)さ(ら)う

ま

が

ら

ち

ち

解(ま)た(び)押(裁)ま(り) 夢(う)く(洞)あ(ち)泣(き) 脚(と)後(取)

